

こころ の 健康

統合失調症について (その1)

千葉県医師会 ねもととよみ 根本 豊實 医師

今号から、統合失調症について簡単に解説します。まずは、症状や経過などの特徴について述べます。

統合失調症は、100人に1人弱の人が発病する、比較的多い精神疾患です。思春期・青年期という人生早期に発病することが多いことや、経過が長期化することが少なくないことから、心の病気の中で最も重要な疾患です。遺伝の面では、多くの慢性的疾患と同様に、発病しやすい体質には遺伝的傾向がみられ、家族にこの疾患を持つ人がいる場合、発病率は若干高くなります。

症状としては、陽性症状と陰性症状に分けて考えることが一般的です。陽性症状は、幻覚(対象のない知覚で幻聴が多い)、妄想(訂正不能な確信で被害妄想が多い)、精神運動性の障害(精神と運動の連絡が断絶し極端な興奮や全く動かなくなる昏迷など)などがあり、これらは通常の人では体験することはない異常体験です。陰性症状は、感情の喜怒哀楽が鈍麻^{どんま}*する、何かをしようという意欲が低下する、周囲の人との交流を避けて閉じこもるなど、普通の人が通常保持している心の機能が低下する症状です。

経過としましては、ほとんどのケースは陽性症状で発病しますが、これについては、ある程度の期間で収まることが多いです(陰性症状がいつとはなしに始まって進行してしまい、発病の時期が特定困難なケースもあります)。しかし、強い再発傾向を持っており、何回かの再発期間を経て、次第に陰性症状が進行してゆく経過をたどります。また、時には妄想が目立って持続し、陰性症状はほとんど出現しないケースも散見します。

長期的な予後の研究が進んできていて、昔考えられていたほど最終的に重篤な状態(基本的に入院が必要)になるケースは、それほど多くないのが現状です(せいぜい4分の1程度)。また、治療^{ちゆ}する人も4分の1近くいることが明らかになってきています。

これは、治療の進歩によるところが大きいと考えられます。今回はその治療について述べたいと思います。

*鈍麻：感覚が鈍くなること

